

- (1) 数理解析 0 について — 別紙参照。
- (2) 「数学序論 + 基礎数学」を一体のものとして取扱う。基礎数学の時間に講義をする事もあるし、数学序論の時間に演習することもある。
- (3) 私語禁止。数学的質問は勿論私語ではないので、随時 (私の話している途中でも) してかまわない。
- (4) 飲食禁止。
- (5) 教室への出入りは自由ではない。途中入室・途中退室は自由だが、再度入室する意思をもって退室する場合は私の許可をとってから退室する事。ただし、「タバコを吸いたい」「電話をかけたい」等の理由は原則不許可。
- (6) 携帯電話の電源を切らなくともよいが、講義中はサイレントモードにし、時計機能以外は使用しないこと。
- (7) 出席はとらないので、欠席届の提出の必要はない。
- (8) 再履修の人への注意：履修届提出後の適当な時期に、Renandi にアクセスして数学序論 (河野担当) が表示されるか確認して下さい。
- (9) 大学の数学についての注意。
 - 1) 大学は講義だけ聞いて理解できるという想定をしていない。講義が演習・実験に比較して、同じ時間で単位数が多いのは、講義と同じ時間の予習・復習 (合わせて講義時間の 3 倍) をすることを前提としている。
 - 2) 講義をしっかりと聞き、分からない所はその場で質問をするように (もちろん後での質問がダメというわけではない)。
 - 3) 数学 (数学だけではないが) を勉強する時間が少なくなる。大学に入って学習時間が少なくなると言うのは変な話だが、調査ではそのようになっている。
 - 4) 内容的にも変化がある。高校では、問題を解くのが中心で、所謂「模範回答」というものが有った。しかし大学では中身 (定義・定理) を正確に (論理的に) を理解するということが中心になる。問題はその補助手段と考えた方が良い。
 - 5) 受験勉強の悪影響である「丸暗記」は理解を妨げることが多い。「理解する」ことを基本的に学習を進めることを強く推奨する。
 - 6) 大学の先生は高校の先生程「親切」ではない。学生を「大人」として扱う。自分から action を起こさない限りめんどうは見てくれない。教師を上手に「使う」か否かで学習効率にも違いがある。

なおこれから講義で配るプリントは Renandi から閲覧できる。試験等の連絡も掲示と同時にのせる。

- 演習の目的は①各自が演習を通じて理解を確かなものにする事、②私が全体の理解度を把握する参考にする、ことにあります。
- だから、課題を提出しないことで不利になることはありません。
- ただし、提出するとほんの少しだけ有利になるかもしれません。
- 演習中、私への質問、近くの人との相談・質問は自由に行ってかまいませんが、立って歩いたりはしないで下さい。相談可ですが、あまりうるさくならないようお互いに注意して下さい。
- 課題は時間の終わりまでには提出して下さい。
- ただし、時間内の演習が不十分と感じた人が追加のレポートを提出することは OK です。提出を希望する学生は直接研究室へ持参して下さい。昨年まではレポートボックスに入れることも可にしていたのですが、間違ったレポートボックスに入れる人がいるので、今年からレポートボックスへの提出は中止します。
- 講義時間終了前にできた人は提出して退室してもかまいません。
- 演習問題の解説をネットに載せます。ただし講義で配ることはしません。
- 提出された課題は default では返却しません。自分で参考にしたい等返却を希望する学生に対しては返却するので、提出後 3 週間以降に研究室に来て下さい。